

令和4年度の取組の概要

学 校 名	大河原町立大河原小学校	主な取組教科	算数科
研 究 主 題	深い学びを実現する算数科授業 —数学的な見方・考え方を働かせた対話的な学びを通して—	研究年次	3 / 3年次

1 今年度の主な学力向上の取組と成果

学力向上の取組	成 果	評価の根拠
<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学的な見方・考え方を働かせた対話的な学びができるよう、教材研究を進めると同時に、「問い返し」によって新たな対話が生まれるような授業作りを行い、深い学びが実現できるよう実践をしてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを説明しようとする児童に加えて、相手の児童が分かるように説明しようとする児童の姿が見られるようになった。 ・ 数学的な見方・考え方に焦点を当てた教材研究を行い、授業中の板書や、発問を通して児童にも見方・考え方を見いださせたり活用させたりしようとする教員の意識が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童を対象に行っている算数意識調査で、「算数の授業中に自分の考えを説明したり、話し合ったりする時間がある」と答えた児童が増え続け、現在は95%となっている。 ・ 教員向けアンケートで、数学的な見方・考え方を意識しながら発問や板書を計画するよう心掛けている教員が多く見られた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学力調査を受けて、各学級担任が児童の苦手な部分を分析し、効果的な学習ができるよう取り組んできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学力調査の結果から評定ごとの手立てを考えたことで、個々の児童に合った指導を進めることができた。 ・ 評定1から評定2の児童が主体的に学習に取り組める授業づくりを意識することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段の授業に加え、家庭学習や補充学習などで習熟度に応じた指導を行う姿が見られた。 ・ 研究紀要 P77 町学力調査の結果を見ると、評定3の児童が増加し、評定1の児童が減少している。

2 残された課題・要因と今後の方向性

課題・要因	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度は思考力、判断力、表現力等を身に付けさせることを目標に取り組んできたが、授業改善の効果を見取るにはまだ時間が掛かる。児童の深い学びの姿の見取り方や授業分析の方法について、研修していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度で本研究は一区切りということになるが、数学的な見方・考え方を働かせた対話的な学びの効果を見取っていくために、授業のイメージを来年度の転入職員とも共通理解し、大河原小全体として取り組むことで、学力の変容を見取っていききたい。

◆大河原町立大河原小学校 研究関連 URL : <https://site.google.com/gs.myswan.ed.jp/daisy>